

防災リーダー育成プログラム テーマ別講習「地震」の実施

日時：令和3年11月13日（土） 9時—18時

場所：岩手大学理工学部共通講義棟（リーダー育成プログラム講義室&会議室）

防災リーダー育成プログラムのテーマ別講習「地震」が実施しました。

午前中は、地震の被害、地震の基礎知識などを学習する座学の授業が実施されました。今年度は、防災まちづくりの特別プログラム受講生が定員超過のため、感染予防対策として隣室の授業をWeb会議システムで配信し、講義資料は自分のパソコンで閲覧する形式で授業を行いました。

午後は、岩手大学構内で、地盤の強度を調査する野外探査実験を実施しました。カケヤで地面を強打して振動を発生させて、一直線に並べた地震計で伝播速度を求め、それによって地盤のS波速度構造を2次元的に画像化します。受講生が重いカケヤを振り下ろしてくれたのですが、ご年配の方にはなかなかしんどい作業だったようです。苦勞して得たデータは即座にその場で解析され、最終的に地下の画像が出てきたときには皆さん驚いていました。授業終了後、この実験をイベントで使用できないかと相談されました。

また、地震時の揺れや耐震対策を理解するために、紙で作られた家の模型を作成し、模型を自分で揺らせてどんな状態のときに揺れが大きくなりやすいか、を実験しました。野外実験終了後、パソコンを用いて日本全国の地震動を予測するホームページを閲覧して、自分の住んでいる街の地震確率や地盤増幅率を調査しました。



防災リーダー育成プログラムは、学生から社会人、ご高齢の方までいろいろな属性の方が参加する一般向けプログラムです。そこに特別プログラムの学生も参加させていただいております。今年度は密を避けるため、特別プログラム学生は隣室で画面越しの受講です。



地盤探査の野外実験（高精度表面波探査）。地震計を24個一直線に配置して、カケヤで地面を強打してその揺れの伝播速度を算出し、地盤のS波速度構造を2次元的に求めます。現地において、実験終了後即座に岩手大学の直下の地下構造を画像化しました。



紙ぶるるを工作し自分で揺らすことによって、屋根や筋交いの有る無しで地震時の揺れ方が大きく変わることが理解できました。